

2024年3月期 第2四半期決算概要

- 前年同期比で増収増益を継続し、上期業績予想を上回る。純損失を計上した前年同期から黒字に転換
- 想定を上回る上期業績を踏まえ、通期利益予想を上方修正。リーマンショック以降で、営業最高益を目指す
- 中期経営計画「リバイバル計画 24 (RP24)」に基づく「3つの改革」と「2つの重点施策」が順調に進捗、RP24 最終年として引き続き「財務基盤の回復」を推進。自己資本比率は12%超
- 来期から開始する次期中期経営計画は、4つの「D」をキーワードにさらなる収益力強化、財務基盤改善を目指し策定中

1. 2024年3月期 第2四半期決算

- 第2四半期(7-9月期)の売上高は2,122億円(前年同期比+145億円、+7.3%)、営業利益は115億円(同+53億円、+85.5%)
- 累計の売上高は4,202億円(前年同期比+445億円、+11.9%)、営業利益は260億円(同+116億円、+80.3%)と、増収増益を継続し、上期業績予想を上回って着地。売上高および営業利益は主に建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業で改善。エネルギー価格下落と販売価格改善が寄与
- 金利上昇に伴い金融費用が140億円に増加する一方、第1四半期にはジョイント・ベンチャーの所有するロシア子会社の売却に伴い金融債権の減損損失の戻入益37億円と、投資に対する減損損失の戻入益12億円を計上。純利益*は98億円となり、多額の減損損失により純損失を計上した前年上期から黒字に転換(前年同期比+486億円、前年同期は388億円の損失)
- 自己資本比率は12.6%(前期末比+2.4pt)に回復

<損益計算書および財務指標>

(億円)	7-9月期(3か月)			累計(6か月)		
	2023年 3月期	2024年 3月期	差異	2023年 3月期	2024年 3月期	差異
売上高	1,977	2,122	145	3,757	4,202	445
営業利益	62	115	53	144	260	116
営業利益率	3.1%	5.4%	+2.3pt	3.8%	6.2%	+2.4pt
個別開示項目(純額)	△473	11	483	△449	3	452
個別開示項目後営業利益(△損失)	△411	125	536	△305	263	568
金融費用(純額)	△37	△77	△39	△66	△141	△75
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	-	37	37
持分法による投資損益	10	12	2	32	22	△11
持分法投資に関する その他の利益(△損失)	5	△0	△5	△7	11	19
税引前利益(△損失)	△434	61	494	△345	193	539
当期利益(△損失)	△403	30	433	△370	105	475
純利益(△損失)*	△412	27	439	△388	98	486
EBITDA	161	226	65	342	480	138
フリー・キャッシュ・フロー	34	130	97	△95	△186	△91

*親会社の所有者に帰属する当期利益(△損失)

(億円)	2023年 3月末	2023年 9月末	増減
総資産	9,514	10,018	504
親会社の所有者に帰属する持分	970	1,265	295
自己資本比率	10.2%	12.6%	+2.4pt

<各事業の概況>

建築用ガラス事業	欧州で販売数量が減少したが、その他の地域での強い需要により増収。原材料とその他コスト上昇の影響を受けるが、エネルギー価格の下落と販売価格改善もあり増益。太陽電池パネル用ガラスの需要も堅調継続、12月からマレーシアの新設備での生産開始を予定
自動車用ガラス事業	全地域で増収増益。自動車生産制約の緩和に伴い、販売数量が増加。原材料およびその他コスト上昇の影響を転嫁するための価格改善交渉も引き続き進展
高機能ガラス事業	IT市場減速の影響を受け減収。原燃材料およびその他コスト上昇および売上構成の悪化により減益

(億円)	2023年3月期		2024年3月期		前年同期比	
	7-9月期	累計	7-9月期	累計	7-9月期	累計
売上高						
建築用ガラス事業	965	1,821	972	1,929	7	108
自動車用ガラス事業	903	1,719	1,043	2,052	139	333
高機能ガラス事業	102	202	99	199	△ 3	△ 3
その他	7	15	8	22	2	7
売上高合計	1,977	3,757	2,122	4,202	145	445
営業利益						
建築用ガラス事業	66	155	99	218	33	63
自動車用ガラス事業	△ 10	△ 17	31	63	41	80
高機能ガラス事業	25	57	19	40	△ 6	△ 17
その他	△ 19	△ 51	△ 34	△ 61	△ 15	△ 10
営業利益合計	62	144	115	260	53	116

2. 2024年3月期 業績予想

- 当初想定を上回る上期実績を踏まえ、通期利益予想を上方修正。2008年のリーマンショック以降で、営業最高益を目指す
- エネルギー価格の落ち着きを想定するが、インフレ拡大等でのコスト増加は継続。金利上昇に伴う潜在的な景気後退などのリスクにより事業環境は依然不透明。金融費用も増加を見込む
- RP24の最終年にあたり、引き続き全社的なコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善に努め、収益性改善に注力

<業績予想>

(億円)	2024年3月期 上期予想 (前回)	2024年3月期 上期実績	2024年3月期 通期予想 (前回)	2024年3月期 通期予想 (今回)	増減	2023年3月期 通期実績 (参考)
売上高	4,200	4,202	8,400	8,400	-	7,635
営業利益	190	260	350	420	70	348
個別開示項目(純額)	0	3	0	0	-	△ 452
個別開示項目後営業利益 (△損失)	190	263	350	420	70	△ 103
金融費用(純額)	△ 130	△ 140	△ 260	△ 290	△ 30	△ 174
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	40	37	40	40	-	-
持分法による投資利益	20	22	60	50	△ 10	73
持分法投資に関する その他の利益(△損失)	10	11	10	10	-	△ 15
税引前利益(△損失)	130	193	200	230	30	△ 219
当期利益(△損失)	90	105	130	140	10	△ 310
純利益(△損失)*	80	98	110	120	10	△ 338

*親会社の所有者に帰属する当期利(△損失)

3. リバイバル計画 24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗、次期中期経営計画の策定

リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗


持続的な成長が可能な事業体質を目指し主要施策を推進


3つの改革

- **事業構造改革**
 - ・ アルゼンチン2基目の新フロート窯が収益に貢献
 - ・ マレーシアの既存フロート窯で、太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備建設および火入れ完了（2023年12月より生産開始予定）
 - ・ 米国でも太陽電池パネル用ガラスの生産能力拡大に向けて検討中

2つの重点施策

- **財務基盤の回復**
 - ・ 営業利益率：原材料費高騰の下、コスト削減、高付加価値製品の拡大、販売価格上昇により6.2%
 - ・ 純利益：好調な業績および第1四半期のジョイント・ベンチャー売却に伴う戻入益の計上もあり、上期累計で98億円
 - ・ 自己資本比率：純利益計上もあり前期末から2.4pt改善し12.6%と目標数値である10%を上回る
 - ・ FCF：第2四半期はプラス。累計でも運転資本増加を除くとプラス、通期での目標数値である100億円以上達成を目指す





マレーシアの太陽電池パネル用ガラス製造設備


2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告 | RP24 説明資料: https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf



リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗

RP24の最終年にあたり、引き続きサステナビリティへの取り組みを推進

サステナビリティへの取り組み

- ・ 十分に持続可能なサプライチェーンを確立・発展させることを目的に、長期的な方針とコミットメントをまとめた「NSGグループ サステナブル・サプライチェーン憲章」を発表
- ・ CO₂排出量を50%削減*した建築用ガラス製品「 Pilkington Mirai™」を欧州で販売開始
*従来の当社製品比
- ・ サステナビリティ目標達成に連動した借入契約を締結、グループの温室効果ガス削減目標、およびカーボンニュートラルの達成を目指すことで、事業戦略の遂行とサステナビリティ推進の両立を目指す




Pilkington Mirai™
イメージビジュアル

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告 | RP24 説明資料: https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf

次期中期経営計画の策定について



現中期経営計画 (RP24)
～2024年3月期

構造改革が収益成長に結実

「コスト構造改革」
+
「事業構造改革」

↓

営業利益は2008年の
リーマンショック以降最高へ

2022年3月期 (実績) : 200億円
2023年3月期 (実績) : 348億円
2024年3月期 (予想) : 420億円

次期中期経営計画 (イメージ)
2025年3月期～

4つの「D」(Decarbonization, Digital, Development, Diversity)をキーワードに、さらなる収益力強化、財務基盤改善を目指す

- **キャッシュ・フロー創出**
 - ・ 収益成長事業の拡大 (Decarbonization, Digital)
 - － 建築用：太陽光発電パネル用ガラス
リノベーション需要の取り込み
 - － 自動車用：CASEやEVに対応した高付加価値製品
 - － 高機能：脱炭素化、高度情報化対応製品
 - ・ 研究開発・事業開発体制の強化 (Development)
- **ボラティリティ耐性向上**
 - ・ グループ経営基盤強化と効率化 (Digital Transformation)
 - ・ サプライチェーン見直しや余剰キャパシティ削減等の継続的な推進
- **サステナビリティ**
 - ・ 2050年カーボンニュートラル (Decarbonization)
 - ・ 人的資本経営、DEI (Diversity, Equity & Inclusion)
- **財務**
 - ・ PBRやROE改善等株主価値向上や資本コストを意識した経営
 - ・ 有利子負債削減、A種種類株式への対応、復配に向けた考え方

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

<お問い合わせ> 広報部 Tel : 03-5443-0100